

＜教科に関する調査結果（学力調査と生徒質問紙）から＞

国語・数学・英語の各教科とも平均正答率が奈良県・全国の平均を上回っています。特に知識・技能の観点に当てはまる問題について、高い正答率でした。基礎・基本となる学力の定着ができているとみられます。

【国語】

ほとんどの設問で全国平均を超えている。特に観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみるという設問の正答率が全国平均より10ポイント近く高くなっている。

グループ活動を積極的に行い、自分の考えを相手に伝える授業を行った。また、板書だけでなく、自分に必要な事柄をメモする指導を継続的に行っていることの成果と考える。

一方、情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる設問に対し、自分の考えは持てているが、記述する際に間違いが多く、少し全国平均を下回っている。今後の取組として自分の考えを表現することはできているので、考えたことを実際に書く機会を授業の中で設定する必要であると考え。

【数学】

基本的な計算や関数・グラフ分野の問題において全国平均を大きく上回る結果となっている。

基礎・基本から徹底し、数学が苦手な生徒に対しても質問教室や学習会等を通じて学習する取り組みを行った。説明する問題において無回答が増加した。特にデータの活用分野の説明問題の無回答が多く、基本的な専門用語の理解や長文の問題文読解、その説明において理解が少なかったことが原因と考えられる。

データの活用分野の基本的な語句からの復習と長文問題・説明問題を重点的に演習等の時間を作って取り組んでいきたい。

【英語】

県内または全国と比べて全体的な正答率が高い。特に聞くこと、読むことに関する問題の正答率は高くなっている。選択式の問題で正答率が高く、記述式の正答率は下がっている。このことから生徒が問題の概要は理解できていても詳細には分かっていない部分があるとも考えられる。

「聞くこと」について、英語のリズム、強弱に注目して聞くなど、聞くときに際してのポイントを伝え活動している。「読むこと」では、日頃の授業で文章を読み、文章の概要をつかむ活動の時間を多くとっており、その成果が正答率に表れていると考えられる。

「読むこと」、「書くこと」の問題で、答えとなる部分は分かっている。しかし答え方（英文の作り方）に間違っている、分からない生徒が多いと考えられる。また、自分の意見を言う記述がとくにできていない傾向にある。「話すこと」に関しては簡単な質問や会話文でも、会話に支障をきたす間違いが目立つ。生徒が英語を話して活動する時間は取ってはいるものの、正確に話せているかの確認まではできていないことが多い。英語を使う機会を増やす程度にとどまっていると考えられる。

今後は、自分の思いや意見を自分が書ける語彙と文法で伝えるということに慣れていない。どうしても日本語のまま訳そうとしてしまうので、自分が伝えられるように変換する方法を伝えるなど、英文法と並行して英語と日本語の翻訳の思考方法などの指導が必要と考える。

「話すこと」に関しては、生徒が英語を発する正確な会話ができているか確認するという流れまでできるよう取り組んでいく必要がある。

<生活・行動や考えに関する調査結果から>

「毎日、朝食を食べている」や「毎日同じくらいの時刻に就寝・起床している。」など基本的な生活習慣はできている割合が多く、きちんとした生活習慣が身についている。

1年時からスマホ安全教室を行い、道徳を通して SNS に対する意識を持たせる取組を継続してきた成果として、携帯電話やスマートフォンの利用やルールを守れているという回答が多く見られる。

家にある本数が少なく、読書の時間が少ない生徒が多く、学校でも本に触れ合う機会を増やし、一部の生徒だけでなく多くの生徒が読書をする機会を設けることが必要と考えられる。

行事を通して、お互いの良いところを認め合い、一人一人の個性を大切にしたり、学期ごとにクラスで話し合いをしたり、クラスや学年をよりよくする機会を多く設けてきたことで、「自分によいところはある」、「学級生活をよりよくするために話し合い、互いのよさを生かして解決方法を求めている」と考えている生徒がかなり多く、今後も生徒の良いところを認め、自分のよさを生かし合える学年集団作りを続けていく。